

平成27年度 大阪市社会教育委員会議 第2回全体会 議事録

1. 日 時 平成28年3月24日(木) 午前10時から12時

2. 場 所 総合生涯学習センター 第1研修室

3. 出席者

(委員)

岩槻委員・大田委員・木原委員・小林委員・立田委員・長谷部委員・平井委員・弘本委員・宮田委員・森下委員

(教育委員会事務局)

山本教育長、松本生涯学習部長兼市立中央図書館長、大久保市立中央図書館副館長、濱崎生涯学習担当課長、植木文化財保護課長、藏田社会教育施設担当課長、宮田地域サービス担当課長、松村生涯学習担当課長代理

(区役所)

村田区役所人権生涯学習主管課長会代表

4. 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席委員・出席関係職員紹介

(4) 報告

- ・「生涯学習大阪計画」の「期間延長」と「計画(修正版)」について
- ・第2次「生涯学習大阪計画」の進捗状況調査等からみる成果と課題について
- ・学校図書館活用推進事業について
- ・その他

5. 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(「生涯学習大阪計画」の「期間延長」と「計画(修正版)」について)

- ・生涯学習が「市民力」を育成すると書かれているところが、この計画の大きな魅力であると感じているが、「市民力」の定義について、あいまいになっている部分がある。市民力とは何かについて、明確化させた方がよい。

(第2次「生涯学習大阪計画」の進捗状況調査等からみる成果と課題について)

- ・行政向けの資料は、市民が見た時に全般的にわかりにくいということを認識して、市民が見た時にわかりやすい資料の作成について考慮する必要があるのではないか。
- ・事業が教育委員会から区に移管されて、区長がその理念をそのまま受け止めてくれ

ればうまくいくが、各々の考え方があると、紆余曲折があつて、理念が反映される区とそうでない区が出てきている。矛盾は実際に生じているので、納得できる形で整理して行ってほしい。

- ・計画の検証をする時には、総括的にやらないといけない。単発的な枠にとどまると、次のプランを考える時に、枠組みを変えようがないので、各項目や施策体系全体を総括しながら、論述する必要があるのではないか。
- ・次期計画の策定にあたっては、大阪市全体にとって、生涯学習が何ができるのかという視点を入れて行ってほしい。生涯学習をもってどう変えていけるのかを考えていくと、指標や改善点につながる。
- ・生涯学習は、リアルな現場の課題をフィードバックできる一番の窓口だと思う。

(学校図書館活用推進事業について)

- ・家庭における読書についての調査を実施したところ、親が本を読む家庭においては、2/3 の子どもが本を読んでいる。逆に親が本を読まない家庭においては、2/3 の子どもが本を読まないという結果が出た。家庭が子どもに与える影響は大きいですが、1/3 の子どもは、親が本を読まないでも本を読んでいる。この結果から、学校図書館の重要性がかいまみれる。また、調べ学習が学力向上アップにつながる可能性が高いという結果が出ている。
- ・現場の意見を聞いてもらって、子どもが本を活用するためのソフト面の工夫をしてほしい。

議事録

(「生涯学習大阪計画」の「期間延長」と「計画(修正版)」について)

立田) 2点質問及び意見がある。

- ① 生涯学習が「市民力」を育成すると書かれているところが、この計画の大きな魅力であると感じているが、「市民力」の定義について、あいまいになっている部分がある。例えば本文中と脚注の定義の文言が若干異なっているので、文言を統一した方がいいのではないか。P2の本文中にも、社会的な課題に対して、ともに解決に当たるという・・・と「社会的な課題に対して」をつけ加えた方がよい。「市民力」について書かれているところが、この計画の重要なポイントだと思うので、市民力とは何かについて、明確化させた方がいいと思う。
- ② P5の大阪市教育振興基本計画の中で「生きる力」という言葉が出てきているが、学校教育と生涯学習をつなぐものとして、「生きる力」は重視する必要がある。P15でも、「市民力」の基礎となる、社会の中で成人が課題に対応しつつ生きる力ともいべき「キー・コンピテンシー」の視点が必要とあるが、生きる力にも、カギカッコをつけて強調してもらいたい。文部科学省の方でも、「生きる力」

については、重要視しているので、「キー・コンピテンシー」の説明の部分に、文部科学省の提唱する「生きる力」と追加してもいいのでは？ そうすれば、文部科学省でも、位置づけされているという認識ができるのではないかと。

濱崎) 貴重な意見をありがとうございます。いただいた提案については、第3次計画の策定時に反映させていきたい。今回の修正版については、教育委員会議でも議決され、すでに外に出ているものなので、ご了承願いたい。

弘本) 今後1年かけて計画を調整するということが、社会教育委員会議との関係性はどうか。意見反映できる機会はあるのか、今後の見通しを教えてください。

濱崎) 今後、昨年3月にいただいた意見具申をふまえるととも、平成27年度にまとめたながら、次に説明させていただく成果と課題についても活用しながら、計画を作成していく。プロジェクト会議で案を作成し、節目節目で社会教育委員会議でも進捗状況を報告しご意見をいただきながら、すすめていきたい。

(第2次「生涯学習大阪計画」の進捗状況調査等からみる成果と課題について)

岩槻) 現行の生涯学習大阪計画の策定当初に比較して、区の独自性が強まったということ踏まえ、新たに区の調査も行ったということで、報告をいただいた。

立田) 2点質問がある

- ① さきほど、説明された「生涯学習大阪計画」の中の「生涯学習支援システムの概念図」にある「広域」「区域」「地域(小学校区)」と、成果と課題の「局版」「区版」の関係がよくわからないので、もう少し説明してほしい。
- ② 別紙2-4の中の「学校3事業」とあるが、この説明を含めて、内容がよくわからない。また、局版、区版の中には、出てきていないが、学校図書館活性化との連携については、どのように位置づけられているのか。

鎌田) 局版の方については、従来から毎年調査している「生涯学習大阪計画」の進捗状況調査をまとめたものとなっている。区版については、進捗状況調査を始めた頃には、区の項目をあまりあげていなかったことから、現状の調査では区の現状について把握しにくかったこともあり、新たにアンケートを実施し、まとめたものとなっている。

濱崎) 生涯学習支援システムの概念(「広域」「区域」「地域」)については、変更をしていない。区版については、局版の方は「広域」が中心となり、区版については、「区域」「地域」が中心となっている。

鎌田) 「学校3事業」については、学校を拠点とした事業(生涯学習ルーム事業、はぐくみネット事業、学校体育施設開放事業)の3つを指して、行政の中でそのように称している。元々は、教育委員会の直執行で実施していたが、現在は、局・教育委員会で、大きな方針を決めて、実務的には各区で実施している。地域活動協議会が発足してから、学校3事業が地域活動協議会の中に組み込まれ、実施される区も出てき

た。このことで、地域での活動内容については、地域で決定して、地域で運営するという地域活動協議会の趣旨との矛盾が生じてきているといった内容について、議事要旨では書いている。

立田) 行政向けの資料は、市民が見た時に全般的にわかりにくいということを認識してほしいと思う。市民が見た時にわかりやすい資料の作成について考慮する必要があるのではないか。

濱崎) 今後、市民にオープンになる資料については、わかりやすさという観点でまとめていきたい。

長谷部) 学校3事業については、補助執行事業ということで、市からの補助金が出ているのではないかと。市からの補助金について、どのように使ってほしいということ局の方から区に強く申し入れてほしい。矛盾した状況については、現場で実際におきていることなので、その辺りについては、きっちりと整理してほしい。

濱崎) 現在では、生涯学習ルーム事業、はぐくみネット事業については、教育委員会、学校体育施設開放事業については、経済戦略局が所管しているが、平成19年度に補助執行事業となり、予算が区に移管された。現在、新たに地域活動協議会ができてきて、「学校3事業」についてどうするかという議論をこの間しているところである。地域活動協議会の中に入ったところ、直執行しているところ、運営委員会に委託しているところ等、運営形態については、区によって様々となっているのが現状。各事業については、次期計画の中でもきっちり位置付けていく。補助執行枠で必ず実施しなければならない事業と言いながら、地域活動協議会の中に入ると、活動内容については、地域が決定するという地域活動協議会の趣旨との矛盾が生じてくる。今後、区長会とも連携して、計画の中に落とし込んでいきたい。

長谷部) 事業が教育委員会から区に移管されて、区長がその理念をそのまま受け止めてくれればうまくいくが、各々の考え方があると、紆余曲折があって、理念が反映される区とそうでない区が出てきている。その矛盾について、納得できる形で整理して行ってほしい。

宮田 (満) 鶴見区でも「学校3事業」については、地域活動協議会の中に入るようになった。はぐくみネットのみ、一括補助金で事業費が入ると聞いている。そうすると、市と地域活動協議会の両方に申請書を出す必要があるが、どのように出せばいいのか、困っている。

また、はぐくみネットの広報誌についても、はぐくみネットの広報誌に地域活動協議会の記事を書けるのはOKだが、その逆はダメとこれまで言われてきたが、それについても、とらえ方が違ってきている。地域活動協議会の中に入ることによって、はぐくみネットが埋もれてしまう可能性もある。地域活動協議会のトップや地域の考え方によって、はぐくみネットが認識されない場合もある。地域活動協議会のメンバーにはぐくみネットのメンバーが入っているか、そうでないかによっても違っ

てくる。はぐくみネットの趣旨について、必要性について、区長、区役所にしっかりと伝えてほしい。地域としては、この事業は、教育委員会がやっているものと理解している。方向性だけはしっかり出してほしい。地域でも、発言はしていくが、発言力が地域でどれだけあるかにかかってくる。

生涯学習をまだおけいこ事ととらえている人も多いが、広報活動として実施している部分もある。その辺りのことも伝えてもらえれば、事業がやりやすくなる。明確に誰が読んでもわかりやすい文言で周知してもらえれば……。

岩槻) 現実的に矛盾が起きているという内容がよくわかった。文言の表現の仕方でよりややこしくなっているのではないかと。事業費はあっても、区の判断でやめておこうとなることもある。その辺りをどうしていくかについて、より明確化していく必要があるということではないか。

濱崎) 事業の方向については、しっかりと議論して、次期計画にきっちり書いていきたい。はぐくみネット事業には、「学校教育支援」「教育コミュニティづくり」「情報発信」の3つの要素があると考えている。「情報発信」については、重要なことであり、研修でも広報誌の作成をお願いしているところであるが、単体の広報誌を発行するのは負担も大きいし様々な方法で発信していくことが重要である。例えば地域活動協議会のニュースに盛り込むなど、いろいろな媒体を活用してほしい。はぐくみネットの根本には、子どもを学校、家庭、地域ではぐくむという理念がある。その基本的な考え方について、整理し、まとめていきたい。

宮田 (満) 広報誌は、はぐくみネット単体で出さなくてもいいのか。

濱崎) 情報発信はしてほしいが、その方法については、地域の状況に応じて選択していただきたい。

宮田 (満) (地域活動協議会でも) 同じことをやっているから不要という町会長もいる。

木原) 計画の検証をする時には、総括的にやらないといけないのではないかと。点検の仕方が単発に示されており、そこにとどまっている感じがする。単発的な枠にとどまると、次のプランを考える時に、枠組みを変えようがない。各項目を総括しながら、論述する必要があるのではないかと。各施策体系内に関してもそうだが、施策体系全体にわたっても、全体をとりあげた点検考察をするべきではないかと。今回の成果と課題ではそれが抜けているように感じる。この成果と課題が次の計画の基礎となるのであれば、枠組みを大きくとらえた論述をするべきではないかと。

また、検証を行ったと書いてあるが、検証した結果の達成点、例えば基準点に達した、満たされたといった書き方がされていない。現行の計画については、具体的な数値の指標がないので、難しいかもしれないが、のぞんだ結果になったのかどうかについては、一定記述が必要なのではないかと。

岩槻) 指標の明確化と総括の仕方が小さいという指摘だったかと思う。

濱崎) 局版、区版のまとめ方については、各局、各区に照会をかけて上がってきたものを

まとめたもの。そのまとめた内容を全体的に整理したものが今回記述されていないという指摘だったかと思うが、今後、考察しながら反映していきたい。プロジェクト会議にもかけてまとめたものだが、その際にも指標、目標がないと管理できないという指摘があったので、今後3次計画の策定に向けて盛り込んでいきたい。

立田) 次期計画の策定にあたっては、大阪市全体にとって、生涯学習が何ができるのかという視点を入れてほしい。

さまざまな社会的な課題を市民力をもって解決していく、その市民力を育てるのが、生涯学習。社会的な課題に生涯学習がどのように対応できるのか、マクロな視点をもって考えていく必要がある。大阪市をこう変えていくという視点が必要。例えば高齢者問題、環境問題、家庭教育、貧困の問題などの各課題について、生涯学習がどうやっていくのかという視点を入れてもらえれば統計を参考にしながら解決をしていける。生涯学習をもってどう変えていけるのかを考えていくと、指標や改善点につながる。

弘本) 現場で活動している人は課題をリアルに感じていると思うが、この成果と課題には、それがリアルに反映されていないように思う。例えば貧困の問題は、大阪は沖縄について2位となっており、大変な状況となっている。貧困が不幸と直結するわけではないものの、課題については、否定できない事実としてある。区で事業を実施するメリットとしては、区がアンテナ機能を担って、現場のリアルな問題を区政に戻せることだと思う。生涯学習は、リアルな現場の課題をフィードバックできる一番の窓口だと思う。

すまい情報センターで運営のサポートをずっとしているが、そこで見えても、高齢者を取り巻く課題が大きく激変していることがわかる。これまで女性特有の課題だと考えていた相談に男性もどんどん来るようになった。相談にくる人はまだ行動力があるが、行動力がない人もいる中で、氷山の一角として出てきている。生涯学習は現場の最前線の意見を反映できる場であることを意識して、まとめてほしい。

岩槻) 枠組みを考え直す際にはマクロな視点が必要であるということと、リアルな課題がみえてこないという指摘だった。大阪市はマスコミでも注目されている自治体でもあるし、工夫してほしい。

山本) 貴重な意見をいただいたことに感謝する。市の行政でいえば、生涯学習を含めて教育分野が重要視されているのは確か。橋下市長時代の功罪を検証しながらも、教育を重視する方向は継承していきたいというのが吉村新市長の意向でもある。教育全体の予算としては、予算増で新規の施策が打たれているが、生涯学習の分野の事業に関しては、むしろ予算減となっているのではないか。今後、生涯学習が市政の中でどのように位置づけられるか、行政にどのような貢献が可能かがわかるような計画が必要だと感じている。教育振興基本計画との整合性をはかりながら、生涯学習

がどのように位置づけられているのか冷静に判断していきたい。各地域によって、地域コミュニティと、学校コミュニティの連携が取れているところと、そうでないところがある。どちらがいいということでもないが、地域の連携のあり方を見定めていくために、各区に区担当理事を配置している。

新市長は幼児教育について強い関心をもっている。就学前の子どもに教育がどれだけのことができるのかはあるが、地域コミュニティでできること、学校コミュニティでできることを見極めながら、整理していきたい。今あるコミュニティをつぶさずに、新しい市政の中で、市政改革に沿ってコミュニティ間の連携を進めていく際の指針となるのが、教育振興基本計画であり、生涯学習大阪計画であるととらえている。現状についても冷静にとらえながら、新しい計画の策定にあたっては、意見、ご指摘をもらいながら、進めていきたい。現行計画には、いわゆるPDCAがないが、それを前向きにとらえて、今後どのような形になってほしいのか、議論をもらって、あるべき姿を形成していく1年としたい。

生涯学習が、市民にとって価値あるものプラス行政にとっても価値の高いものであることを示せるような計画にする必要がある。各委員の意見ももらいながら、指針を示していきたい。

(学校図書館活用推進事業について)

立田) 1600 のサンプルで、家庭における読書調査を行った。親が本を読む家庭においては2/3 の子どもが本を読んでいる。逆に、親が本を読まない家庭においては、2/3 の子どもが本を読まないという結果が出た。家庭が子どもに与える影響は大きいですが、1/3 の子どもは、親が本を読まないでも、本を読んでいる。この結果から、学校図書館の重要性がかいまみれると思われる。

また、今年度、図書館振興財団の調べ学習コンクールに参加している地域、例えば茅野市(長野県)が有名だが、その地域の学力が向上したという結果が出てきている。調べ学習が学力向上アップにつながる可能性が高い。調べ学習は、教科にとられない探究学習。物語を読む読書だけではなく、科学の分野の読書にもつながっていく。各学校単位で、調べ学習コンクールへの参加を促せば、学力アップにつながるかもしれない。

森下) 蔵書の増はとてもよいことだと思う。その一方で、いくら本が増えても、子どもたちは読まない。読み聞かせをしてもらって、本を読むことが楽しくなるよう努力をしている。学校図書館が常時あいている状況にはまだまだなっていない。

もう少し現場の意見を聞いていただいて、子どもが本を活用するための要望にあわせて、ソフト面の工夫をしていただければ、配置していただいた人員の活用が有効にできる。学校現場の意見を聞く機会を作っていただければありがたい。

小林) 区の教育会議が昨日あったが、読み聞かせのボランティアがなかなか集まらないと

いう意見が出ていた。図書館の方で読み聞かせの仕方について教えてほしいというリクエストがあった。港区では、地域ボランティアをつのって、その人の読み聞かせの講師として派遣されているとも聞いた。

宮田 (英) 補助員については、読み聞かせの研修を実施している。各区の図書館でも、毎年ボランティアの養成講座をおこなっている。なかなか数が集まらないが、地域の各学校で、活動してくださっている。地域図書館の司書が出前で出向く取組もしているので、活用していただきたい。学校現場の声などいかがいながら、よりよい事業とするよう進めていきたいと考えており、今後も協力をお願いしたい。